

コース 9 む れい やま 牟 礼 山

リーダー CL T/K SL T/H

実施日 平成30年 5月 12日(土) 天候 晴

参加者 27 (男性 8 女性 19)

グレード B

コースポイント

ポイント	到着時間	出発時間	備考
荻川駅東口	—	7:00	新津駅西口 区役所経由
道の駅(豊栄)	7:55	8:10	トイレ 登山靴装着
ゲート	8:50	9:00	道路工事のため車両交通止めのゲート
牟礼山登山口		9:20	
牟礼山頂上	11:05	12:05	昼食 記念撮影
牟礼山登山口		13:40	記念撮影
ゲート	14:05	14:25	帰路へ
道の駅(豊栄)	15:05	15:25	トイレ
荻川駅東口	16:25		

山行等概要(幹事のコメント)

- 今日は雨の心配がなさそう。ただ県道 463 号線の道路工事のため通行止めが少し気になる。友達からの情報をもらって、後日自分で見に行った際には、少し歩けば問題ないと判断して帰ってきたのだからと思いながら気になる。バスは定刻に新津駅に向けて出発。出発して間もなく携帯電話が鳴り、急用ができたので本日の山行を欠席させていただきたいと連絡が入り、28名のところ27名で出発。
- 途中道の駅(豊栄)に立ち寄り登山靴に履き替え、今年入会した人達の自己紹介を済ませ現地に向かう。予想通り[通行止]のゲートあり。ゲート前でバスはストップ、準備を整え登山開始。
- ゲートから登山口ま約 1 km位、20 分かけて登山口に到着。予定より20分早い。
- 杉の植林地を過ぎて少し休憩を取り、10 分程歩くと分岐に着く。ここからは道幅も狭くなり、巻き道で尾根にたどり着く。またここからは頂上まで尾根道で、登山道にはピンク色、白色のイワカガミが咲き揃ってき



牟礼山頂上

れい。もう 1 時間以上緩い登り

道を登っているので、疲

れが出たと思われ列が乱れる。今日最大の急斜面の階段を登るので、少し休憩を取る。

- 登り始めるが、より列が乱れる。頂上には最初に着いた人より 10 分ほど遅れて最後の人が到着。全員揃ったので、昼食にする。
- 昼食後記念撮影をし下山開始。下山は楽。登山道には木の根があるので、上り以上に注意しながらゆっくり歩く。上り際には、イワカガミに気をとられてタムシバの花が咲いていることに気がつかず、下山の際に気がつく。ゆっくり下山したので、1 時間 40 分程で登山口に到着。記念撮影を済ませ、思い思いにバスの待つゲートへと向かう。
- ゲート前で帰り支度を整え、バスの乗車し帰路に着く。途中道の駅（豊栄）に立ち寄り、終着地には 40 分程早く到着。
- 参加者の皆さ、ご協力ありがとうございました。

奥胎内『牟礼山』

1563 H/S

気温の変化の激しい今年の天候の中で、5 月 12 日は「6 月初めの汗ばむ陽気」と予報され、その暑さを心配していたが、薄雲が広がり強い陽射しを浴びることも少なく、快適な山旅を楽しむことができた。

§ 新々バイパス「豊栄パーキング」で

- 今年、クラブに入会し、この日の山行に参加した新会員 6 名の紹介が行われ、盛大な歓迎を受けた。
- 登山口の狭い駐車スペースの関係から、登山靴履き替えの場所としての難点もあり、ここでの早めの履き替えを行った。

§ 県道の通行止めと「ワラビ」

登山口に至る県道が途中で通行止めとなっており、登山口までの 1.5 km を歩くところとなったが、沿道に目をやると、ここにもあそこにも「ワラビ・・・」が。結果として通行止めは、登山口の先での土砂崩れによるものであったが、余計に歩いた苦痛よりも収穫の喜びの方が大きかったようだ。

§ 9:00・登山開始

登山口は、送電塔巡回路の入口に当たり、案内板には「頂上まで 1 時間 40 分」と示されていた。

- ていねいに敷かれた砂利道から、すぐに杉木立の中の九十九折りの登りに入り、2 ヶ所の鉄塔を過ぎる。

※ 白い「イワカガミ」

ここから行く先々に「イワカガミ」の群生に出会うが、その全てが「白と薄紅」色で、牟礼山の植生の大きな特長だと感じられた。

- 途中、鉄塔巡回路との分岐点表示板があり、ここから登山道はやや細くなるが、アカマツと広葉樹の中、尾根筋の緩やかなアップ・ダウンが続く。

- そして「コース唯一の急坂」にさしかかる。

「かつては何の設備もなく滑りあい滑った（R/H 女史）」という急坂。

今、階段とロープが設けられ、ただひたむきに登り続けること20ぶんくらいだったろうか。何とか難所を乗り越えて次のステップへ。

- ブナの混じる尾根筋のルートを快適に足を運び、周囲が開けたところでようやく山頂。

§ 11:05 山頂着

- 抜群の眺望

360°の大展望は、目前に朝日連峰、そして奥に飯豊連峰（杵差岳）と、眺望の良さに目を見張った。

- この日の参加者は27名、そう広くはない山頂も、全員揃ってのんびりと昼食を楽しむには適度なスペースであった。

§ 再び「ワラビ」

下りに皆さんの目には、上りと異なる角度で「ワラビ」が飛び込んでくる。適当に疲れを癒してくれていた「ワラビ」に感謝。



牟礼山夏井登山口